

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東海紙器株式会社新浜松工場建設	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市北区都田町字前原88	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	40 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2023年1月16日
敷地面積	9,416 m ²	作成者	相模 明
建築面積	4,470 m ²	確認日	
延床面積	5,676 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
これはCASBEE静岡2021年SDGs対応版による評価結果です。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
今回建物では段ボールの加工組立を行う生産機械があるため作業動線を第一に考え、その上で建物利用者が快適に使用できる最低限必要な環境を用意することを心掛けた。	建物内の空間に余裕を持たせ、建物利用者の快適性や各種機器交換のしやすさを考慮し建物を計画した。	敷地内の空間にゆとりを持たせることで、周辺環境との調和を図った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
モデル建物法による建物のエネルギー負荷を検討することで過剰なエネルギー消費を防ぐよう心掛けた。	建物の今後の多様化を考慮することから各部分において解体等が容易な部材、状態とすることを心掛けた。	建物用途からも各環境への過剰な負荷が無いような一般的な環境基準をクリアするように心掛けた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東海紙器株式会社新浜松工場建設	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市北区都田町字前原88	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	40 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2023年1月16日
敷地面積	9,416 m ²	作成者	相模 明
建築面積	4,470 m ²	確認日	
延床面積	5,676 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	1.9
4(教育)	2.0
5(ジェンダー)	2.0
6(水・衛生)	1.9
7(エネルギー)	2.0
8(経済・雇用)	1.8
9(イノベーション)	1.9
11(都市)	1.8
12(生産・消費)	2.1
13(気候変動)	1.9
15(陸上資源)	1.1
17(実施手段)	2.2

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
これはCASBEE静岡2021年SDGs対応版による評価結果です。	0	
Q1 室内環境 今回建物では段ボールの加工組立を行う生産機械があるため作業動線を第一に考え、その上で建物利用者が快適に使用できる最低限必要な環境を用意することを心掛けた。	Q2 サービス性能 建物内の空間に余裕を持たせ、建物利用者の快適性や各種機器交換のしやすさを考慮し建物を計画した。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の空間にゆとりを持たせることで、周辺環境との調和を図った。
LR1 エネルギー モデル建物法による建物のエネルギー負荷を検討することで過剰なエネルギー消費を防ぐよう心掛けた。	LR2 資源・マテリアル 建物の今後の多様化を考慮することから各部分において解体等が容易な部材、状態とすることを心掛けた。	LR3 敷地外環境 建物用途からも各環境への過剰な負荷が無いよう一般的な環境基準をクリアするように心掛けた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	東海紙器株式会社新浜松工場建設工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4 /5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.6 /5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5 /5		がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつう 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		3.4			
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④外壁にALG(耐用年数60年程度)、ガルバリウム鋼板角波サイディング(耐用年数25年程度)、内壁・天井に石膏ボード(耐用年数20年以上)を使用する計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦モデル建物法より BPIm=0.80 ⑨モデル建物法より BEIm=0.66</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型便器等を使用する計画とした。 ⑫建築材料は全てF☆☆☆☆を使用する計画とし、化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材を使用する計画とした。 ⑬解体時、躯体・下地・仕上・設備が容易に分別可能な計画とした。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p>	Q-1 2 2.1 2.2	① 外皮性能			
	Q-1 3 3.1 3.13	② 昼光利用設備			
	Q-2 2 2.2 2.2.1	③ 昼光制御			
	2.2.2 ④ 躯体材料の耐用年数	④ 2.2.3 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	④ 2.2.4 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	④ 2.2.5 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	④ 2.2.6 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔
Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出	⑥ 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	⑧ 自然エネルギー利用	⑨ 設備システムの高効率化	⑩ モニタリング	⑩ 運用管理体制
2	⑦	⑧	⑨	⑩	⑩
3	⑦	⑧	⑨	⑩	⑩
4 4.1	⑦	⑧	⑨	⑩	⑩
4.2	⑦	⑧	⑨	⑩	⑩
LR-2 1 1.1	⑪ 節水	⑪ 雨水利用システム導入の有無	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	⑪ 材料使用量の削減	⑪ 既存建築躯体等の継続使用
1.2 1.2.1	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪
1.2.2	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪
2 2.1	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	⑫ 有害物質を含まない材料の使用
2.2	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫
2.3	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫
2.4	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫
2.5	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫
2.6	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫
3 3.1	⑬ 消火剤	⑬ 断熱材	⑬ 冷媒	⑬	⑬
3.2 3.2.1	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬
3.2.2	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬
3.2.3	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬
LR-3 1	⑭ 地球温暖化への配慮	⑮ 温熱環境悪化の改善			
2 2.2	⑭	⑮			
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		3.6			
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯建築基準法に定められた50%増の耐震性能を有する計画とした。</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯ 耐震性			
	2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		2.5			
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高のゆとりを確保した計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱ ⑲ ⑲ ⑲ ⑲ ⑲			
	3 3.1 3.1.1 3.1.2	⑱ ⑲ ⑲ ⑲ ⑲ ⑲			
Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上				
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		2.5			
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p>	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出			
	2 3 3.2	⑤ ㉒ まちなみ・景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上			
LR-2 2 2.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材				
LR-3 2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善				